

昭和 5 9 年 1 月招集

第 1 回館山市議會臨時会會議録

館山市議會



## 目 次

開 会	3
議長の報告	3
議案の配付	3
会議録署名議員の指名	3
会期の決定	3
議案第 1 号、議案第 2 号	4
提案理由の説明	4
神田守隆君の質疑、当局の応答	5
委員会付託の省略	10
採決	10
閉 会	11
本日の会議に付した事件	11

1 昭和59年1月21日(土曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 神田 守隆  
3番 山中金治郎  
5番 川名 正二  
7番 榎本 春光  
9番 福原 勤  
11番 飯田 義男  
13番 石井 昌治  
15番 渡辺 昭夫  
17番 近藤 好雄  
20番 石井 武敏  
22番 林 豊  
24番 流山源次郎  
26番 石井 正  
28番 安澤 徳順

2番 田沢 勝信  
4番 日下 君敏  
6番 生稻 陸  
8番 小宮 利夫  
10番 横溝 功  
12番 石井 謙  
14番 伊藤幸太郎  
16番 松下 正己  
19番 黒川 平治  
21番 吉田勇治郎  
23番 伊賀 多朗  
25番 五十嵐 昇  
27番 安西 益男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一  
収入役 太田 博雄  
総務部長 鶴岡 卓樹  
教育委員会教育長 安田 豊作

助 役 小倉 澄男  
市長公室長 斉藤 武男  
教育委員会委員長 山口 武重

1 出席事務局職員

事務局長 高尾 豊  
書記 兵藤 恭一  
書記 石井 一夫

事務局長補佐 熊谷 吉雄  
書記 鈴木 哲

1 議事日程

昭和59年1月21日午前10時開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

- 日程第 3 { 議案第 1 号 損害賠償の額の決定及び和解について  
議案第 2 号 昭和 5 8 年度館山市一般会計補正予算 (第 6 号)

開 会 午前 1 0 時 0 2 分

◎議長 (石井 正君) 本日の出席議員数 2 7 名、これより昭和 5 9 年第 1 回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

#### 議長の報告

◎議長 (石井 正君) 本臨時会議案審議のため、地方自治法第 1 2 1 条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので、御了承願います。

なお、市長から地方自治法第 1 8 0 条の規定による専決処分が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

#### 議案の配付

◎議長 (石井 正君) ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。

配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

#### 会議録署名議員の指名

◎議長 (石井 正君) 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

6 番議員生稻 陸君、2 2 番議員林 豊君、以上両君を指名いたします。

#### 会期の決定

◎議長 (石井 正君) 日程第 2、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき議会運営協議会の意見は本日 1 日ということであります。

お諮りいたします。会期を本日 1 日と定めますことに御異議ありません

か。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって会期は本日1日と決定いたしました。

#### 議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第3、議案第1号損害賠償の額の決定及び和解について及び議案第2号昭和58年度館山市一般会計補正予算を一括して議題といたします。

#### 提案理由の説明

○議長(石井 正君) これより各議案に対する提案理由の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 本日、ここに、急速第1回市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆様方におかれましては、御多忙の中を御出席賜り、まことにありがとうございます。

今回、急施を要するものとして御審議をお願いいたします案件は、一般議案及び補正予算各1件でございます。

以下、その概要について御説明申し上げます。

まず、議案第1号損害賠償の額の決定及び和解についてでございますが、館山市に対しまして、昭和56年10月29日原告鈴木幸夫から昭和53年12月13日市立富崎小学校の図工の授業時間中、他の児童が揚げていたたこ落ちてきて左眼に傷害を被ったとして損害賠償請求の訴えの提起があり、裁判中でございますが、今回、裁判官の和解勧告によりまして原告に対し800万円を支払うことで和解が整いましたので、地方自治法第96条第1項第11号及び同項第12号の規定により議会の議決をお願いするものでございます。

次に、議案第2号昭和58年度館山市一般会計補正予算(第6号)でございますが、議案第1号で御審議をお願いいたしました損害賠償金800万円及び訴訟代理人に支払う予定の謝礼30万円、合計830万円を歳出

に追加し、これに伴う財源として全国市長会学校災害賠償補償保険金 800 万円と一般財源を充て、歳入歳出それぞれ 104 億 2867 万 4000 円にしようとするものでございます。

以上、提案理由について御説明申し上げましたが、いずれも急施を要するものでございますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明を終わります。ありがとうございました。

○議長（石井 正君） 以上で提案理由の説明を終わります。

### 質 疑 応 答

○議長（石井 正君） これより各議案の審議を行います。

この際、お諮りいたします。議案第 1 号及び議案第 2 号の各議案については一括して質疑を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

御質疑を願います。

○1 番（神田守隆君） 議案によりますと、53 年の 12 月 13 日に起きました事件ということで、事件が起きてから訴訟に至るまで時間の経過があるわけですが、事故の発生から訴訟に至るその間、市としての対応について問題はなかったのかどうか。市がどのような対応を事故の発生後とってこられたのか。その辺の経過について御説明をお願いしたいと思います。

それから、もう 1 点は、損害賠償の請求 2429 万 2618 円に対して 800 万円ということで話し合いがまとまったということですが、この 800 万円という金額について妥当性といえますか、そうした点について少し説明をお願いしたいと思うわけで、2429 万 2618 円という請求額の内訳はどのような内容で請求がされたのか。

それから、市がこれまでこれに対して訴訟の経過でどのような主張をされてきたのか御説明をお願いしたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 事件の経過について申し上げます。

ここに、当時の渡辺重雄校長から事故報告が出されておりますが、発生時刻は 53 年 12 月 13 日午後 2 時 30 分ごろ、場所は富崎小学校運動場です。被害者はそこにありますように第 4 学年の鈴木幸夫。加害者という

ことですか、たこが落ちてきて当たったんですが、その落ちてきたたこを揚げていたのは同じ4年生の嶋田美和という女の子です。発生の場合の、たこ揚げに使ったのは工作の時間につくったたこでございます。指導者は4年生の学級担任の鎌田愛子。そうしてたこを揚げて、落ちてきて、それが目に当たってけがをしたわけですが、そのときは目に当たったんでその子はうずくまっておったと、こういう報告でございます。ただし、その後元気になって、その後の時間夕方までこれは剣道部——クラブで剣道をやっているようですが、剣道はやらなかったけれども見学して帰った。こういうのが発生当日のいきさつでございます。

翌日、目が痛くなったということで医者にかかるということになったわけですが、ですから、13日ですから、14日対策として——12月14日に校長としては全職員にそういう事故の経過を説明して、その後の指導体制に当たった。

同時に、受け持ちと校長はすぐ見舞いに行っておるわけですが、見舞いの仕方としては校長及びPTAそろってお見舞いをして、金品としては1万円を贈っております。それから、加害者からは10万円を、すぐお見舞いに行ったわけですが、これは返金されております。それから、その後受け持ちの担任が10万円を贈りました。これは受け取ってもらいました。それから、校長と受け持ちで2回目のお見舞いに2万円持って行っているということでございます。

手術は12月26日、要するに医者は2回ぐらい変わっているようですが、最後の手術をしたのは亀田病院、2月29日と3月20日に手術をしております。

校長が加害者、被害者と話し合って——私のメモでは、その後治療については一切学校——いまで言うと健康会——学校安全会、それによって治療費が支払われておるわけでございます。

最後に、0.02というのは、学校健康会の廃疾の度からいくと8級に該当します。8級の補償については295万円の給付があるわけで、これを支払いは教育委員会で行ったわけですが、その際は円満解決ということで、話し合いは円満についたわけですが、その後どういうあれか突如としてさっきの説明にありましたように、56年の10



月29日に訴訟に持ち込まれたわけでございます。これは時効になる1週間ぐらい前だったように私は記憶をしております。

その後は、裁判所で、いろいろ証人等呼んで、いろいろ公判が行われたわけです。

事件の経過については以上です。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 金額の2429万2618円の内容といいますが、訴訟の内訳でございますが、損害額の総額は2541万3469円、そこから先ほど教育長が御説明申し上げました損害の一部補てん312万850円引いた金額でございます。

あと、内容につきましては、細かい損害額の要求につきましては、医療費とか入院雑費とか細かい計算根拠はございます。

○1番（神田守隆君） 大体、事故の発生からその経過についてわかりましたが、295万円で、当時の学校安全会の事故に対する補償、これは実情からいって大変低かったというような事例じゃなかろうかなというふうに思うんですが、いかがお考えか。

そして、現在この問題については、学校安全会についてどういうふうに改善等がされておるか、おらないか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、いまの総務部長のお話で細かい——大まかな数字で、100万単位で結構ですから、医療費、慰謝料、逸失利益等、中身がどういう内容なのか。というのは、800万円という問題、損害賠償額というものを見る上でそれが一つの見方の根拠になるわけですから、それがどういうふうになっているのか。

それと、先ほど御答弁いただいてないんですが、市がこれまで被告として主張してきたポイントというのはどういうものなのか、これをお聞かせ願いたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 学校安全会——いま学校健康会の補償ですけれども、第1級というのが1500万でございます。これは14級までありまして、14級が33万の支給というようなことになっております。

それから、両者の主張については、ここに裁判の写しがありますので、この中の要点を申し上げてみたいと思います。

原告側の主張としては、本事件は担任の鎌田教諭の指導、監督が不十分

だった、こういうためにこの事故が起こった、こういう主張でございます。

当時の様子でございますが、受け持ちの指導は30名、そのうち——図工の時間というのは、大体3時間で、たこ揚げの授業が行われるわけでございます。簡単に言うと、第1時間は絵をかく、第2時間目が紙にひごを付けてたこをつくる、第3時間目がたこを揚げて試してみる、こういう時間の経過が計画としてなっておるわけでございます。そのちょうど3時間目に当たったわけです。

そのとき、まだたこをつくり上げない子供が10人おって、20人ぐらいが運動場に出てたこを揚げた。そのときたこの揚げ方としては2人ひと組で、1人が持っておって1人がたこを揚げた。そのとき幾つぐらい揚がっていたかということについては、この中では風の速度ですけれども、2m乃至3mという程度の微風だったということでございます、これは測候所のあれでございますけれども。そうしたら鈴木幸夫の、原告のたこを揚げようとしているところに隣に揚げておった嶋田美和のたこが落ちてきた。ここにはありませんけれども、証人の証言の中では、いわゆる逆さにばーっとは落ちてはこなかった——とにかくわかりません、3年前の、子供の証言ですから。しっぽの方からゆらゆらと落ちてきたのが当たった、こういう証言の方が多いようです。多いようですが、とにかく当たったということが事実です。

その20人の子供のたこの揚げ方について、教師としての鎌田教諭の指導に手落ちがあったというのが原告側の主張です。手落ちがあったということは注意が足りなかったということが1つ。それから、20人ものたこを一緒に揚げさせるということは無理だという主張でございます。

それに対して、被告——こちらの主張は、教師の授業中における注意義務の限界というものがあるんだ。要するに30人の学級を——いま45人ですから、普通の場合は。たまたまここは30人であったわけですが、45人の子供にたこをつくらしてそれを揚げるということについては注意の限界があるんだ。それについてはいろいろ判例を挙げてこちらは反証しておりますけれども、それが1つ。

それから、もう1つ。注意義務は、これは両者が——要するにくっついて揚げないように注意はした、これは両者が認めております。ということ

で、20人の子供が2人ひと組になると10組ですけれども、10組を大体3組に離れて揚げさしていた。これはお互いに認めております。

そのうち、全部が同時に揚げていないで、糸目を直したりなんかして準備しているのが半数あった。そうすると、大体、さっきも申しあげましたように揚げていたのは3つか4つぐらいだったというような話。これも当時の記憶については非常にあいまいな点がありますけれども、かなり一致した点のようです。

それから、こちらの妥当性ですけれども、このたこ揚げという教材を選んだということは、学校で教える指導の基準にするのは学習指導要領というのがありますが、その図工科の学習指導要領の中に動くおもちゃをつかって遊ぶというような、そういう表現になっていたわけですが、それがたまたま教科書がありまして日文という——日本文教出版という教科書会社の12月の授業のところを見るとたこ揚げになっているわけです。たこ揚げはさっきお話しましたような3段階の授業を行う。私、この事件が起きたときにそれは少しやりすぎたんじゃないかなと、私個人が思ったくらいでしたが、指導書の計画を見ると、第3時間目にマルがついていまして、一番重点に指導をするのはたこを揚げる時間だ、こういうことでございます。

その当時の授業記録を鎌田教諭はちゃんと残しておりまして、それを見ましたけれども、富崎の小学校としてはそういうカリキュラムをつくってその時間にちょうど——12月13日でしたか、やるような計画になっておりまして、そのとおりに鎌田教諭は忠実に行的っておるということでございます。

そういうことから、鎌田教諭の責任、注意義務ですけれども、それを見ることは、限界を越えるんだという主張で示談が行われた。こういうようなことで御理解いただけるかどうか。

以上です。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 内訳について大ざっぱに御説明申し上げます。

2541万3000何がしの御要求の内訳ですが、医療費が——千円単位で申し上げますが、17万7000円、医療費外費用6万円、付添看護費21万6000円、入院雑費2万9000円、通院交通費6万8000

円、労働能力減退による逸失利益1886万3000円、それから慰謝料が600万円、合計2500何がしになります。

損害費用の補てんは、先ほど教育長から御答弁申し上げましたように、医療費の4割、これは日本学校安全会からですが7万1000円、それから廃疾見舞金として先ほどお話のように8級で295万円、それとお見舞金が10万円、差し引きますと2429万2618円になります。

それと、先ほど教育長の方から、教育上の問題点からお話申し上げましたが、妥当性につきましては私の方も苦慮したところですが、過去の判例——目の判例につきましては、数が少ないんですが、ごく最近の例を抬いますと400万から600万、それも54年度の事例がございます。それともう一つは訴訟代理人、弁護人の進言が強でございます。それと先ほど申し上げましたが、この充当は保険金でやりたいという——そういう結果になっておりますが、全国市長会の学校災害賠償補償保険金の範囲内である。そういう考え方をとっております。

○議長（石井 正君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

議案第1号及び議案第2号の各議案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

#### 採 決

○議長（石井 正君） よって、これより一括して採決いたします。

議案第1号及び議案第2号の各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって議案第1号及び議案第2号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

閉 会 午前 10 時 32 分

○議長（石井 正君） 以上で本臨時会に付議されました議案は議了されました。

よって、これにて第 1 回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 1 会議録署名議員の指名
- 1 会期の決定
- 1 議案第 1 号、議案第 2 号

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

館山市議会議長 石 井 正

館山市議会議員 生 稻 陸

館山市議会議員 林 豊